高原町地域婦人連絡協議会(宮崎県)

皆さま、こんにちは。高原町地域婦人連絡協議会の発表をさせていただきます。私は会長の大迫眞智です。



活動地域の紹介

高原町は九州宮崎県の西南部に位置する、人口約9,300人ののどかな農村で、天孫降臨伝説の残る「神話のふる里」として知られています。昭和30年には人口が1万6,000人を超えていましたが、毎年約100人ずつ減少している状況にあります。高齢化も進み、学校に通う子供たち世代が少なくなっています。高原町は肉用和牛を中心とした畜産の町で、ここ最近では牛の方が人口より多くなってきていて、1万頭を超える数がいます。







町のシンボルとして、霧島錦江湾国立公園の高千穂の峰や、4年前に噴火した新燃岳のある霧島連山が町の西側にそびえています。常に美しい風景をかもしだしてくれております。写真の「天逆鉾」は高千穂の峰の山頂にあり、日本初の新婚旅行として、坂本龍馬とおりょうさんが登り、二人で天逆鉾を引き抜いたとの記録も残されています。



こちらは高千穂の峰をふもとの火口湖「御池」より望む、夕方の景色です。

高原町には天孫降臨伝説や数多くの神話が残されていて、神話の里として、町を盛り上げております。神武天皇が幼少期を過ごした場所と伝えられる狭野神社などの旧跡も残っています。

毎年12月には、国の重要無形民俗文化財となっている高原神舞(たかはるかんめ)が舞われます。





皆さまもぜひ一度、わが町、高原を訪れていただけ たらと思います。

東京からですと、4時間ほどでこれらの美しい景色 をご覧いただけると思います。それでは、町の紹介は このくらいにさせていただいて、高原町地域婦人連絡 協議会の取り組みを紹介させていただきます。



団体概要

私たちは昭和 27 年の結成以来、62 年にわたり、高原町の防犯や青少年の育成、非行防止に自主 的、積極的に取り組んできている婦人ボランティア団体です。

現在会員は39名で、40代から80代までの幅広い年齢構成となっております。

設立当初は戦後間もない食料難の時代であり、地域の みんなで力を合わせ、知恵を出し合い進んでいこうとの 思いで、代用食を用いた食生活の改善や青少年の健全育 成、非行防止など「地域のお母さん」として、町を盛り 上げる活動をしてきました。近年は時代の移り変わりと ともに活動も多様化し、環境美化や地域安全活動、高齢 者の見守りや相談など、会員それぞれが得意分野を生か しながら、いろいろなことに問題意識を持ち、取り組ん でいます。



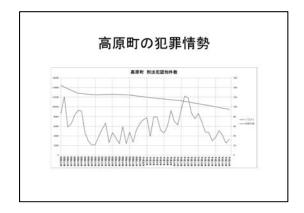
戦後からこれまでの間には、活動を継続するのに苦労したこともございますが、これほど長く活動を続けてこられたのは、婦人団体という独自性から、町や住民の皆さまに信頼していただき、さまざまな要望に真摯に、かつ自らが楽しんで取り組み、会員同士のコミュニケーションを大切にしてきたからだと思います。



活動(事業)内容・特長

本日は防犯ボランティアフォーラムですので、これに関する取り組みを主に紹介させていいただきます。参考までに、これが高原町における刑法犯の認知件数です。県警にある記録は昭和 40 年からでしたので、残念ながら設立当時の件数等は不明です。なお、国勢調査を基にした町の統計による人口の推移もおおまかに載せております。

このグラフからもお分かりのとおり、人口は少しずつ減少しておりますが、認知件数は激しく変動を繰り返してしております。平成に入ってからの認知件数は、平成 13 年の 122 件、平成 14 年の 119 件を最多とし、平成 25 年の 25 件を最少として、近年は減少傾向です。高原町でも、刑法犯被害のほとんどは窃盗によるものです。



活動内容

- ・交通安全・防犯指導
- ・薬物乱用防止の呼びかけ
- ・児童虐待防止や青少年健全育成
- ・見守り活動
- ・挨拶運動
- ・環境美化
- ・まちづくりへの参加

私たちは啓発活動として、小学生への交通安全や防犯指導、中学生への薬物乱用防止、オレオレ詐欺や空き巣などの犯罪被害防止の注意や呼び掛けなど、さまざまな活動を実施しております。

交通安全の呼び掛けでは、小学校の入学時にチラシや手作りのグッズを配っています。また、声掛け事案への対応など、防犯指導も行っております。新入学児は、今まで保護者の方々が送り迎えをしていた幼稚園、保育園とは違い、子供たちだけで集団登校を行うわけですが、そこは子供ですから、自ら危険に飛び込んでしまうような場面もないわけでなく、そういう事故に巻き込まれないようにするため、大人が見守り、安全な地域をみんなで作るのだという気持ちで取り組んでいます。

子供たちからは「しっかりと交通ルールを守ります」との声を毎年聞かせてもらっています。ここ数年、子供が巻き込まれる事故は起きておらず、私たちの活動も、そのお役に立っているものと喜んでおります。

これが新入学時の様子です。一年生の入学式にはこのようにして、一人一人に声を掛けながら「交通ルールを守りましょう」と伝えています。





中山間地域の農村部にある私たちの町、高原町は移動するには車が必需品です。そのためか、運転技術の衰えを感じさせるような高齢ドライバーが多数います。過疎化が進み、公共交通機関のアクセスが悪いため、年を重ねても運転を続けざるを得ない状況です。そんな皆さんにも、自分の運転を過信しないよう注意してもらいながら、安全運転を心がけていただくことが大事だと思っています。

町の皆さんも「気を付けます」「お互いに注意しましょうね」と嬉しい声を聞かせてくれます。





新しいことへの興味が増え、いろいろな刺激を欲する年代の中学生に向け、薬物乱用の防止を呼び掛けています。一度手を出すとなかなかやめられないと聞く、違法な薬物との関わりを持ってほしくないとの思いから、毎学期末に集中して声掛けを行っています。夏休みなどの長期休暇中、大人の目が届かないところで子供が危険に近づかないようにとの思いです。



子供の健やかな成長を願うのは皆同じでも、中にはうまくいかない人もいます。

万が一にも子供たちが、そんな大人の被害者にならないよう、児童虐待の防止に取り組んでいます。 母親が孤独になりがちな昨今の子育て環境において、地域のお母さん的な役割を担うことも私たち の活動です。新入学児童の健診時に子供たち数人を引率して身長・体重などの計測に連れていったり します。時には、集団生活に慣れていないお子さんが自分勝手に動き回り、手を焼くこともあります が、地域で見守る子育ての一環としてあたたかく接しています。

また、地域のイベントなどで、幼児を預かる託児サービスなども行っています。若いご夫婦が地域の行事や講演会に参加してもらうためのお手伝いです。これからの地域を盛り立ててくれる、未来の一人一人を大事にしていきたいと考えています。

そのほかにも、農業地域ならではの食育や地産地消の取り組みとして、子育て支援を実施しています。例えば、地域でとれた野菜や米、農産物を使い、親子料理教室等を行っています。親子の関係をよりよくするための共同作業としての料理だったり、郷土の産業・農業を子供たちに体感してもらうための取り組みでもあります。自分の暮らす町を素晴らしいところだと感じてもらうことが大切だと考えています。私たちにとっても、後世に語り継ぐべき素晴らしい伝統や文化を、活動を通じて教え合い、学び合うことは大きな刺激でもあり、楽しさでもあります。





会員の中には、散歩がてら防犯活動に励んでくれている人もいます。以前、買い物に出かけようとした高齢者が、自宅の近くで気分が悪くなっていたところを、ある会員が見かけ、その方を自宅まで連れて帰ったことがありました。「地域のちょっとした変化を見逃さない、そういう目も大切かな」と仲間内では話しております。

また、大人の目が届かないところに少年少女がたむろするのは世の常でしょう。私たちの町でも、 そのような場所を少しでも減らしたいと、各自が見回ることもしています。そんな中で、すれちがう 子供たちとの交流は楽しみでもあります。

私たちは人との交流を大切にしています。そういう時に大事なことは「挨拶」です。挨拶は、人と 人のつながりを密にしてくれます。私たちのほかにも、高原町内の学校では毎月2のつく日に「あい さツーの日」という取り組みを行っています。校門前で立ち番をしながら、見守り隊の方々が子供た ちに挨拶をしています。私たちも一緒になって、行きかう子供たちに挨拶をしています。子供たちも 大人の顔を覚え、帰り道やイベント会場でばったり出会うと、元気に挨拶を返してくれます。

多くの子供たちは、知らない大人に対しても、まず自分から挨拶をするようになっています。地域 の人と大きな声で笑顔で挨拶をすることで、親しみや信頼が生まれ、地域の人に見守られているとい

う安心感が持てます。だからこそ、私たち大人が率先して挨拶することが大事と思い、あらゆる場面で挨拶運動を展開しています。大人か子供かに関わらず、相手を一人の人間として接しようとすれば、挨拶は自然に出るものです。だから挨拶は、子供たちに「あなたのことをちゃんと見ているよ」と伝えることでもあります。こんなことから子供たちとの信頼関係が築けたらいいなと思います。いつか地域のボランティア活動にも参加してくれるかもしれません。



私たちは、町主催行事における運営支援や環境美化活動にも協力しています。

人材の不足している地域ですが、活力ある町を作ることも、十分な防犯になるのではないでしょうか。毎年、町の皇子原公園というところで「桜まつり」「彼岸花まつり」「日本発祥地まつり」が行われます。そこでは、焼き肉フェスタと称して炭火焼肉を行っていますが、婦人会のわれわれが、お客様のご案内やテーブルの準備、後片付けなどに協力しています。活力あるまちづくりを、土台部分で支えている活動だろうと思います。

地域の美化活動も防犯活動の一つとなると思っています。ごみの落ちている道路は更なるごみをよびます。毎年、お盆前などに地域をきれいにするため、ほかの団体と一緒に町内の清掃をしています。





自主的な活動を行い、町の皆さんに喜んでいただき、自分たちも楽しむ。こういったことの積み重ねが、よりよい地域づくりには必要と考えて、研修会も行っています。地域の防犯やオレオレ詐欺などについて、交番のおまわりさんに協力をいただき、講演会を開いたりもしました。

皆さん、「がね」はご存じでしょうか。鹿児島県から、私たちの高原町を含む「諸県(もろかた)」とよばれる地域に広く伝わる郷土料理で、短冊状に切ったサツマイモや、家庭によってはその他の野

菜を混ぜたかき揚げのことで、もともとは「カニ」という意味です。私たちの団体も、町からの助成金をいただいてはおりますが、活動費は何かと不足しますので、毎年秋祭りで出店を出し、カレーなどの昼食や「がね」などの手作りの惣菜を販売し、その収益を活動費に充てています。金額的には、まだまだ自立とまでは言えませんが、額の多少よりも心意気だと思います。

私たちの活動を通し、世代を超えての交流が生まれていることは、喜ばしく嬉しいことです。 女性の団体である私たちにできる小さな活動が、地域の絆づくりや防犯につながってほしいと願っ ています。





活動効果

私たちの活動歴が長いものですから、よく「長続きの秘訣は?」と聞かれることがあります。残念ながら、そんな便利なものはありませんが、例えば、私たちの団体ではお姑さんが引退され、お嫁さんがその引継ぎで加入される例がよくあります。そういう方が、小さなお子さんを連れて会議や懇親会にいらっしゃると、会員みんなであやしたり、育児のちょっとした相談にのったります。また、郷土料理の作り方を覚えたり、ミニバレーなどの活動が楽しくて続けてきたという声もよく聞きます。そういった楽しさや地域の人々の感謝の声が、私たちの活動の大きな原動力となっています。やはり、会員それぞれがやりがいを実感することが活動の継続の上でも大変重要だと思っています。

また、組織の継続という点について言えば、どれだけ優秀で人望のあるリーダーであっても、いずれは引退します。一人に引っ張られる集団は、その人が抜けると、活動がおぼつかなくなります。個々の会員にしても皆、個性があり考え方も違います。その上、大抵、それぞれ仕事や家族のことで何かしらの悩みがあるものです。悩み事が重なれば、ボランティアどころではありません。だから、組織のリーダーは皆の意見に耳を傾け、悩みにも寄り添いながら、しかし、決めるべきときは逃げずに決める。そうやって、古参にも新人にも居心地のよい場所を作る。そうすれば代を重ねても、たとえ少々の不満が胸の内にあっても、皆がその場所を好きでいてくれる限り、一所懸命そこを守ってくれるでしょう。ですから、私たちは決して無理はしません。強制もしません。だから仲違いもありません。それぞれが自主的に、できるときにできることをしています。

今後の課題

もちろん、これまで述べたように、町や住民の皆さんに頼まれて、決まった日にみんなで一緒に活動するときもあります。でも、参加できない人がいても、それで活動が止まるようなことはありません。誰かが代わりを務めます。かく言う私も、本日は、大事な高原の秋祭りを放り出し、副会長に任せて、この場に出席しております。手伝ってもらうのではなく、手伝いたくなる場所を作ること。これがリーダーの役割だと私は考えます。それはまた、地域そのものにも言えることです。

町内をきれいにすることは立派な防犯活動だと思っています。「全国で最も美しい村連合」に加盟している高原町が、自然豊かで住みよい町であり続けることが重要なのです。美しい町を大切にしていくことは、住みやすく安全な町を守ることなのだと信じています。自分たちの住む町なのだから、自分たちで大切にしていかなければいけないと思っています。

これから先、会員の高齢化や町の人口減少も、より一層強く感じることと思います。年齢構成をより幅広く、仕事や家事、育児に関係なく参加できるようにしなければなりません。また、多くの団体との交流を深め、お互いの不足するところを補い合いながら活動していくことが、より重要になってまいります。そのためにも楽しい活動を続けること、地域のため、人のため、自分のためになることを続けることが私たちの役割と思い、やっていきたいと思っています。楽しみながら活動していれば、交流の輪が広がり、知り合いにも声を掛けやすくなります。これまでも、そうやって会を引き継いでまいりました。

宮崎の小さな田舎町の取り組みですが、皆さまの参考になりましたら幸いに思います。本日はご清 聴ありがとうございました。





質疑応答

●質問 今、発表いただいた中で、62年の長きにわたって活動されているということですが、現在、 多くのボランティア団体が、後継者がいない、新しい人が入ってきてくれないといった課題を抱えて いる団体が非常多くなっています。そうした中で先ほど、強制はしない、自主的な活動、手伝いたく なる場所を作ることがリーダーであるという素晴らしいご発表をいただきましたが、そもそも活動に 参加してもらわなければいけないわけですが、勧誘のポイントや手法があれば、もう少し詳しく教えていただければと思います。

〇回答 発表の中でも申し上げましたが、どの団体にも当てはまる魔法のようなものはないと思います。それぞれに組織の成り立ちや地域性、会員の構成が異なるわけです。私たちの場合は地域の婦人の交流と研鑚の場として、各世帯を代表する立場の女性が参加するという意識が元にあります。しかしながら、それは緩やかなもので、強制加入ではありませんでしたし、昔はたくさんの方が入っていらっしゃって、各ご家庭から一人ずつ入っていらしたのですが、もう現在はそういうことはありません。

何しろ少子高齢化の時代ですし、それぞれニーズが違います。若者夫婦も減っていく。そういう時代です。私たちの団体は、地婦連と略称で申しますが、会員が減少しており、活動が停滞した時期などもあります。私自身も、食生活改善推進協議会(食会)の会長をしておりましたところ、たまたま「地婦連の会長がいないのでぜひ」ということで、今もその二つを兼務しております。その際、何人かの食会の会員に、地婦連にも入っていただきたいという声掛けをしますが、なかなか思うようにいかない場合もございます。やはり声を掛ける以上は、その会と活動を本当に好きでなければ、自信を持って勧めることができないということはあると思います。

自分たちの団体だけで全てをやるという時代はもう過ぎたのかなと感じますので、いろいろな団体の方と手をつなぎながら、不足するところは助けていただきながら活動することが、これから先も会員が減少する中で、活動をずっと継続していくことにつながるのではないかと思います。

人口も減っていますし、高齢化も進んでいますから、そういう中で同じような活動をずっと続けることは難しいことでしょうけれど、ぜひ、これから先も無理なく活動をして、そして地婦連という組織が、町のために、地域の人々のために役立つことを願っています。

●質問 町からの助成金というのは高原町という町からの助成金でしょうか。それとも地域の自治会などの助成金でしょうか。

〇回答 行政の高原町からいただいている助成金で 12 万だと思います。それに少し研修費などを合わせて、22 万ほど現在はいただいています。

●質問 私たちは町会から5万円の助成金をいただいていますが、それと比べると多いですね。もちろん、いただくお金だけではなく、自ら自助努力をしてお金を作り上げているということですが、年間ですと、だいたい活動費はおいくらぐらいかかるのでしょうか。

〇回答 30万ちょっとだとは思いますが、研修先に行くときのお弁当であったり、活動発表会だとかスポーツ大会などに参加するときや、研修の場のいろいろな費用といったものに使うとあっという間になくなります。だから、どうしてもボランティアという意味合いが強くて、自費も兼ねるというようにもなっていきますが、何とかやりくりしながら、足を出さない程度には頑張っております。